

令和7年度 第2回広島市感染症対策協議会

【日 時】 令和7年5月19日（月）19:00～20:00

【場 所】 広島市役所 14階第7会議室

【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、石川 暢久、吉岡 宏治、高橋 宏明、金子 朋子、大橋 信之
増田 裕久、梶梅 輝之、岡野 里香

1 感染症に関する最近の情報

(1) ポリオウイルスの取扱いに関する指針及びポリオウイルスに対する緊急時対応計画の策定について（資料1 P1～ 63）

令和7年4月25日、国は、ポリオウイルス排除国において、環境水サーベイランスや急性弛緩性麻痺サーベイランスから主に2型の伝播型ワクチン由来ポリオウイルスが検出されており、海外からの感染者を介したポリオウイルスの流入やポリオ基幹病院におけるポリオウイルスのばく露事例等が確認されていることを踏まえ、国、地方公共団体、医療機関等が、WHOが定める「ポリオウイルス封じ込めのための世界的行動計画」に沿った適切な対応をとれるよう、各都道府県及び保健所設置市等に対し、事務連絡を発出した。

主な内容として、平時におけるポリオウイルス基幹施設における病原体管理や、環境水サーベイランスや急性弛緩性麻痺サーベイランス等における平時の対応が示されている。

また、ポリオウイルス基幹施設からの病原体の漏出や海外から感染者を介しての流入等、急性灰白髄炎（以下「ポリオ」という。）の発生リスクを想定した、有事の各組織の対応についても示されている。

医療機関においては、感染症発生動向調査を通じたポリオ・急性弛緩性麻痺の発生動向の把握といった平時からの対応ほか、感染者や感染が疑われる者が発生した場合、都道府県等と連携し、必要な検査や感染者の個室管理等の適切な医療を提供することなどが示されている。

（委員意見）

- ・ 日本以外の複数のポリオ排除国において、環境水サーベイランスから2型ワクチン由来ポリオウイルスが検出されているため、今後の国内外での発生動向に留意する必要がある。

(2) 伝染性紅斑の発生状況について（資料1 P 64～ 65）

全国における第17週（4月21日～4月27日）の感染症発生動向調査における伝染性紅斑の患者報告数は、定点当たり1.3（報告数3,073例）と、過去10年間で最多の報告数となっている。

本市においても第19週（5月5日～5月11日）の感染症発生動向調査における患者報告数は定点当たり1.23（報告数27例）と増加傾向を示している状況である。

伝染性紅斑は、約10～20日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん（紅斑）が現れる。続いて、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がるが、1週間程度で消失する。自然軽快することがほとんどだが、伝染性紅斑に感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や、流産のリスクとなる可能性があるため、妊娠中は風邪症状がある人との接触をできる限り避ける必要がある。

上記を踏まえ、令和7年4月30日、国は、都道府県等の母子保健主管部局に対し、事務連絡を発出し、妊婦健診において感染対策を実施するよう注意喚起を行っている。

本市においても、今後の発生動向について注視していくとともに、市民に対し、ホームページや母子手帳アプリ等を活用し、注意喚起を行うこととする。

（委員意見）

- ・ 今後も患者報告数が増加することが懸念されるため、引き続き発生動向に注視する必要がある。
- ・ 妊婦が感染した場合、胎児水腫など胎児に影響が及ぶ可能性があるため、注意が必要である。

(3) 日本国際博覧会（大阪・関西万博）開催に伴う感染症サーベイランスの取組強化について（資料 1 P 66～ 85）

令和 6 年 1 月 9 日、国は、国立感染症研究所が実施した 2025 年日本国際博覧会（以下「大阪・関西万博」という。）に向けたリスク評価の内容について、都道府県等自治体に事務連絡を発出した。

また、令和 6 年 9 月 6 日、大阪・関西万博開催期間中の強化サーベイランスの実施体制並びに万博関係者及び万博来場者の感染状況の情報共有に係る実施内容について、事務連絡を発出した（令和 7 年 4 月 11 日一部改正）。本事務連絡で示された強化サーベイランスの実施方針は以下のとおり。

ア 実施期間

令和 7 年 3 月 13 日～令和 7 年 11 月 13 日（開会 1 ヶ月前から閉会后 1 ヶ月後）

イ 強化サーベイランス対象疾患

＜強化サーベイランス対象疾患＞

- ・ 麻しん ・ 侵襲性髄膜炎菌感染症
- ・ 中東呼吸器症候群（MERS） ・ 万博会場内で提供された食品に関連した腸管出血性大腸菌感染症

ウ 感染症発生動向調査における対応（医療機関・自治体）

万博関係者又は万博来場者であって、万博会場が感染機会として疑われる事例を探知した場合、発生届に万博会場が感染機会として疑われる旨を記入する。

エ 情報共有及び連携・協力体制（自治体）

- ・ 万博会場の周辺地域の自治体においては、あらかじめ関係者間における連絡・協力体制を確保する。
- ・ 強化サーベイランス対象疾患について、万博関係者又は万博来場者の事例を探知した場合、国立健康危機管理研究機構に相談する。

オ 疑似症サーベイランスの強化（自治体）

本市においても、今後の動向に注視していくとともに、万博会場が感染機会として疑われる事例を探知した場合は、関係機関と連携し対応することとする。

（委員意見）

- ・ 大阪・関西万博開催期間中の強化サーベイランスに協力していくとともに、今後の発生動向に注視する必要がある。

2 4月の定点把握対象感染症発生状況《公開》（資料2、3）

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病 名	令和7年4月分	令和7年5月分
		報告日 4/7～5/4	報告日 5/5～5/13 現在
2類	結核	9人 (結核 7人, 潜在性結核 2人)	3人 (結核 2人, 潜在性結核 1人)
3類	腸管出血性大腸菌感染症	2人(1人(4/21), 1人(5/4))	3人(2人(5/12), 1人(5/13))
4類	E型肝炎	1人(4/28)	
	A型肝炎	2人(1人(4/23), 1人(5/2))	
	日本紅斑熱	1人(5/1)	1人(5/12)
	レジオネラ症	1人(5/2)	
5類	カルバペネム耐性腸内細菌 目細菌感染症	1人(4/10)	
	劇症型溶血性レンサ球菌感 染症	1人(5/4)	1人(5/12)
	侵襲性インフルエンザ菌感 染症	2人(1人(4/14), 1人(5/1))	
	侵襲性肺炎球菌感染症	3人(1人(4/21), 1人(4/24), 1人 (5/2))	1人(5/9)
	梅毒	12人(1人(4/8), 1人(4/17), 2人 (4/18), 1人(4/21), 1人(4/24), 2 人(4/25), 1人(4/26), 1人(4/28), 2 人(5/2))	4人(1人(5/7), 2人(5/8), 1人 (5/12))
	破傷風		1人(5/7)
	百日咳	100人(5人(4/7), 3人(4/8), 5人 (4/9), 1人(4/10), 4人(4/11), 2 人(4/12), 4人(4/14), 4人(4/15), 7 人(4/16), 7人(4/17), 5人(4/18), 3 人(4/19), 7人(4/21), 3人(4/22), 5 人(4/23), 3人(4/24), 9人(4/25), 8 人(4/28), 1人(4/29), 3人(4/30), 2 人(5/1), 9人(5/2))	30人(1人(5/5), 6人(5/7), 7人 (5/8), 7人(5/9), 2人(5/10), 4 人(5/12), 3人(5/13))

()は届出日

4 事務局からの確認事項《公開》

新型インフルエンザ等行動計画の変更に係る聴取の方法について

5 その他《公開》

次回開催予定日 令和7年7月22日(火) 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症（月報対象）の長期的変動

1 患者情報

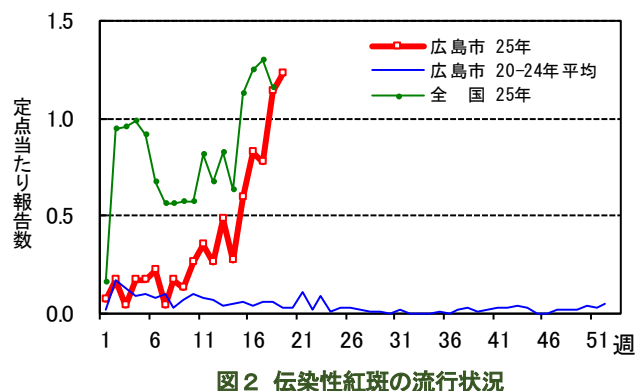
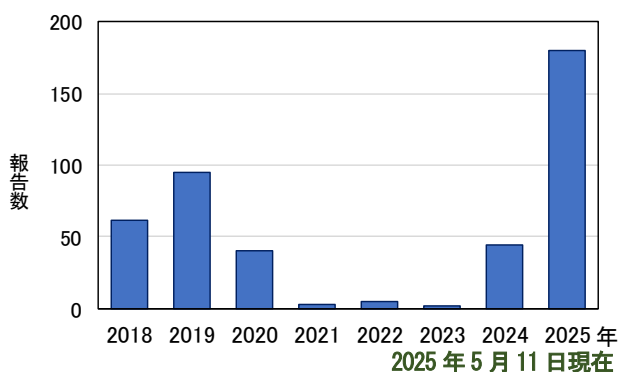
(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、4月は10,181人であった。そのうち、急性呼吸器感染症（ARI）を除いた患者報告数は1,839人で、前月比0.96とほぼ横ばいであった。

伝染性紅斑は大きく増加、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、マイコプラズマ肺炎は増加、インフルエンザ、咽頭結膜熱、流行性角結膜炎、感染性胃腸炎（ロタウイルス）はやや増加、RSウイルス感染症、感染性胃腸炎はやや減少、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は減少した。

(2) 特記事項

- 急性呼吸器感染症（ARI）は、第19週（5月5日～11日）に定点当たり53.82人の報告があった。また、病原体サーベイランスでは、第15週から第18週までに採取された50検体のうち、34検体から7種類のウイルスの検出があった。検出数は、ライノウイルス／エンテロウイルスが19検体と最も多く、次いでSARS-CoV-2が8検体であった。
- 百日咳の今年の累計報告数は180件（5月11日現在）と、2018年に全数把握疾患となってから最多の報告があった2019年の年間報告数（95件）を大きく上回った（図1）。生後6か月以下では重症化リスクが高く、注意が必要である。予防にはワクチン接種が有効であり、定期接種対象者は早めに接種することを推奨する。
- 伝染性紅斑は、第19週に定点当たり1.23人の報告があり、増加傾向である（図2）。妊婦が感染すると胎児水腫や流産を引き起こす可能性があるため、注意が必要である。



- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、第19週に定点当たり2.82人の報告があった。手洗いや咳エチケットの励行などの感染予防対策が重要である。
- 感染性胃腸炎は、第19週に定点当たり7.55人の報告があった。減少傾向であるが、第20週（5月12日～18日）に集団発生が2件報告されており、引き続き注意が必要である。こまめな手洗い、便・吐物の適切な処理など感染予防対策を徹底することが重要である。

(3) 4月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核9件（患者：7件、潜在性結核：2件）
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 2件
- 4類感染症：E型肝炎 1件、A型肝炎 2件、日本紅斑熱 1件、レジオネラ症 1件
- 5類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 1件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 1件、侵襲性肺炎球菌感染症 3件、梅毒 13件、百日咳 100件

(4) 今後の流行予測

感染性胃腸炎、伝染性紅斑、感染性胃腸炎（ロタウイルス）、百日咳・・・【流行中】
 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）、劇症型溶血性レンサ球菌感染症
 ・・・・発生動向に注意が必要である。

2 検査情報

(1) 4月の検査結果判明分

感染症発生動向調査に基づく病原体定点医療機関からの搬入分（ARI 分を除く）のみ掲載

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
インフルエンザ	インフルエンザウイルス A(H1N1) 2009 型	2 月	1 人
	インフルエンザウイルス A(H3) 型	3 月	1 人
	B 型インフルエンザウイルス	3 月	1 人
感染性胃腸炎	* ノロウイルス GⅡ	2 月	1 人
	* A 群ロタウイルス		
流行性角結膜炎	アデノウイルス 37 型	3 月	1 人
	アデノウイルス 54 型	1 月	3 人
その他の消化器疾患（下痢、腹痛）	サポウイルス	3 月	1 人

*：複数病原体検出例

9 人の患者から 8 種類のウイルス 10 株が検出された。検出ウイルスの内訳は、アデノウイルス 54 型 3 株、インフルエンザウイルス A(H1N1) 2009 型、インフルエンザウイルス A(H3) 型、B 型インフルエンザウイルス、ノロウイルス GⅡ、A 群ロタウイルス、アデノウイルス 37 型、サポウイルス各 1 株であった。

(2) ARI 病原体サーベイランス検査結果（第 15 週から第 18 週採取分）

感染症発生動向調査に基づく ARI 病原体定点医療機関からの搬入分のみ掲載

検体採取週	検査検体数	陽性検体数 *	インフルエンザウイルス A(H1N1) 2009 型	インフルエンザウイルス A(H3) 型	B 型インフルエンザウイルス (ピクトリア系統)	B 型インフルエンザウイルス (山形系統)	新型コロナウイルス (SARS-CoV-2)	A 型 RS ウイルス	B 型 RS ウイルス	ヒトメタニューモウイルス	パラインフルエンザ ウイルス 1 型	パラインフルエンザ ウイルス 2 型	パラインフルエンザ ウイルス 3 型	パラインフルエンザ ウイルス 4 型	ライノウイルス / エンテロウイルス	アデノウイルス
第 15 週	7	5					3			1					3	
第 16 週	14	10	2				2	2		1					4	
第 17 週	14	10	1				2			2			1		4	3
第 18 週	15	9					1						1		8	1

* 同一検体からの複数ウイルス検出例を含む

(検査：広島市衛生研究所)

5類感染症定点情報
(令和7年4月解析分)

1. 週報対象(第15週～第18週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	急性呼吸器感染症(ARI)		8,342	246.94		11	突発性発しん		18	0.82	
2	インフルエンザ		116	3.41		12	ヘルパンギーナ		2	0.10	
3	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)		128	3.77		13	流行性耳下腺炎		2	0.10	
4	RSウイルス感染症		63	2.86		14	急性出血性結膜炎		-	-	
5	咽頭結膜熱		38	1.73		15	流行性角結膜炎		36	4.51	
6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		272	12.36		16	細菌性髄膜炎		-	-	
7	感染性胃腸炎		1,004	45.64		17	無菌性髄膜炎		-	-	
8	水痘		11	0.51		18	マイコプラズマ肺炎		23	3.83	
9	手足口病		6	0.28		19	クラミジア肺炎		-	-	
10	伝染性紅斑		73	3.32		20	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		25	4.16	

2. 月報対象(4月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症		26	2.89
2	性器ヘルペスウイルス感染症		6	0.67
3	尖圭コンジローマ		10	1.11
4	淋菌感染症		8	0.89
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		22	3.67
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		-	-
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		-	-

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減		
前月と比較しておおむね1:1.5～2の増減		
前月と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減		
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)		

予測記号

流行始まり	
流行中	
流行終息傾向	
終息	

全数把握感染症報告数(令和7年4月分)

第15週～第18週(4月7日～5月4日)報告分

類型	疾患名	広島市		全 国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ベスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	9	43	1,064	4,392
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-
三類	15 コレラ	-	-	-	3
	16 細菌性赤痢	-	1	5	17
	17 腸管出血性大腸菌感染症	2	4	121	449
	18 腸チフス	-	-	-	7
	19 バラチフス	-	-	-	2
四類	20 E型肝炎	1	2	65	196
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	2	3	10	51
	23 エキノコックス症	-	-	4	9
	24 エムボックス	-	-	-	1
	25 黄熱	-	-	-	-
	26 オウム病	-	-	-	3
	27 オムスク出血熱	-	-	-	-
	28 回帰熱	-	-	1	2
	29 キャサヌル森林病	-	-	-	-
	30 Q熱	-	-	-	-
	31 狂犬病	-	-	-	-
	32 コクシジオイデス症	-	-	-	1
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	-	15	17
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チクングニア熱	-	-	2	6
	40 つつが虫病	-	-	11	47
	41 デング熱	-	3	10	50
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	1	1	29	32
	46 日本脳炎	-	-	-	-
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	-	-
	51 ペネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ボツリヌス症	-	-	-	1
	55 マラリア	-	-	1	7
	56 野兎病	-	-	-	-
	57 ライム病	-	-	-	-
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	-	-
	61 レジオネラ症	1	6	109	548
	62 レプトスピラ症	-	-	-	1
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-
五類	64 アメーバ赤痢	-	1	44	161
	65 ウイルス性肝炎	-	1	12	71
	66 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1	6	63	554
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	1	9
	68 急性脳炎	-	3	32	227
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	1	7
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	17	59
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	8	119	574
	72 後天性免疫不全症候群	-	2	62	259
	73 ジアルジア症	-	-	4	11
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	3	65	283
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	1	10	30
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	3	17	342	1,671
	77 水痘(入院例に限る。)	-	1	63	196
	78 先天性風しん症候群	-	-	-	-
	79 梅毒	13	47	1,089	4,542
	80 播種性クリプトコックス症	-	1	14	54
	81 破傷風	-	-	4	25
	82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	1	7	33
	84 百日咳	100	159	8,615	14,267
	85 風しん	-	-	-	5
	86 麻しん	-	-	40	106
	87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	4